



命の水を守る

講演と映画会

臨時国会では、水道法、漁業法……国民の財産・権利を奪う「法律の改悪」が、国民の疑問に何も答えぬまま次々と強行採決されました。まさに「日本が売られる」国会でした。

いま、安倍政権は世界の民間企業に向かって水道事業を売り渡そうとしています。「地域でのたたかい」が正念場です。

水道民営化に失敗したヨーロッパでは「再公営化」が始まっています。今回上映する「最後の一滴まで」は、パリ、ベルリンなど各都市の市民のたたかいを生々しく描いています。

わが国の水道事業も、施設の老朽化、財政難、「合理化」と下請化で厳しい状況にあります。すでに岐阜市や大垣市の料金業務はフランス企業ヴェオリアの関係会社の下請化されています。今回、経営に行き詰まる水道事業への提言や民営化に反対する市民運動の支援活動で全国を東奔西走されている近藤夏樹名水労委員長から「今、水道の民営化が狙われている！」と題して講演をしていただきます。みんなで「水道事業の現状と水の公共性」について考えたいと思います。



12/22(土) PM6:30~8:30

ハートフルスクエアG 大研修室

岐阜市橋本町 1-10-23 TEL058-268-1050

参加費：500円

● 講演と討論 (pm6:35~7:25)

今、水道の民営化が狙われている！

ー水道事業の現状と水の公共性を考える

近藤 夏樹 名古屋水道労働組合中央執行委員長

1963年生まれ。岐阜市出身。名古屋市上下水道局職員。現在、自治労連公営企業評議会事務局長として全国の地方公営企業現場を東奔西走。



● 映画上映 (pm7:30~8:30)

最後の一滴まで - ヨーロッパの隠された水戦争

主催：長良川市民学習会 (連絡先) 090-1284-1298 武藤